平成30年度 授業シラバスの詳細内容

科目名(英)	経営分析 (Financial Statements Analysis)			授業コード	E013451
担当教員名	吉本　圭一郎			科目ナンバリングコード	E30614
配当学年	3	開講期	後期		
必修・選択区分	選択	単位数	2		
履修上の注意または履修条件	講義には休まずに出席してください。また，計算機(電卓)を必ず持参してください。				
受講心得	関連科目を学習していると，経営分析の理解が早まります。				
教科書	最初の講義で指示します。				
参考文献及び指定図書	ビジネスゼミナール経営分析入門　森田松太郎　日本経済新聞社				
関連科目	簿記入門，簿記原理，会社簿記，財務諸表論，原価計算論，管理会計論，財務管理論，監査論				

授業の目的	最近では，市販の会計ソフトのほとんどに経営分析システムが組み込まれています。しかし，月次決算や年次決算の際に，このような数値を有効に経営に反映している企業はさほど多くないように見受けられます。企業を取り巻く経済環境は厳しいだけでなく，絶えず変動しています。先月まで好調に見えた企業が，突然，経済環境の変動で倒産に追い込まれることがあります。そのようなことにならないように，企業の経営者は自社の経営分析を定期的に行い，自社の経営体質強化に役立てていく必要があります。本講義では，そのような経営分析能力の基礎を身につけることを目的としています。
授業の概要	授業では毎回レジュメを配布し，それにそって講義を進めていきます。また，実際に公表されている企業の財務諸表などを用いながら，経営分析の各種指標等を体系的に学習していきます。

○授業計画	
学修内容	学修課題(予習・復習)
第 1 週 ： 経営分析の意義と目的 経営分析の意義と目的を説明します。	経営分析に関連した新聞記事を読む(1時間)
第 2 週 ： 簿記・会計の基礎(1) 経営分析を定量的に行う場合，財務諸表に関する知識が必要不可欠です。ここではその財務諸表作成の基礎的技術である複式簿記について学習します。	レジュメ配布。「複式簿記の仕組みに」ついて復習する(1時間)
第 3 週 ： 簿記・会計の基礎(2) 経営分析を定量的に行う場合，財務諸表に関する知識が必要不可欠です。ここでは貸借対照表や損益計算書など，代表的な財務諸表の仕組みについて学習します。	レジュメ配布。「B/SとP/Lの仕組み」について復習する(1時間)
第 4 週 ： 収益性分析(1) 企業が成長・発展していくには，利益の獲得が必要です。ここでは，企業の収益性，つまり儲ける力(利益を得る力)や儲け方の効率を企業の財務諸表の数値等を用いて，分析します。	レジュメ配布。「ROAとROE」について復習する(1時間)
第 5 週 ： 収益性分析(2) 前回に引き続き，収益性分析を学習します。具体的には，売上高利益率などについて学習します。	レジュメ配布。「売上高利益率」について復習する(1時間)
第 6 週 ： 効率性分析(1) 企業は調達した資金を使って資産を取得し，売上をあげていきます。ここでは，企業が調達した資産を効率よく使って，収益を獲得できているかについて，財務諸表の数値等を用いて，分析します。具体的には，総資本回転率について学習します。	レジュメ配布。「総資本回転率」について復習する(1時間)

第 7 週 ： 効率性分析（2） 前回に引き続き，効率性分析を学習します。具体的には，売上債権回転率，固定資産回転率，仕入債務回転率などを学習します。	レジュメ配布。「総資本回転率の展開」について復習する（1時間）
第 8 週 ： これまでの復習と小テスト これまでの復習を行います。また，小テストも実施予定です。	確認テストに出題されたところを中心に復習する（1時間）
第 9 週 ： 安全性分析（1） はじめに前回の小テストを返却し，解説します。その後，安全性分析の授業に入ります。安全性は「倒産危険性」ともいえます。自社の倒産は何としても回避しなければいけませんし，倒産しそうな相手との取引は当然避けるべきです。ここでは，こうした企業の安全性について，財務諸表の数値等を用いて，分析します。具体的には自己資本比率を中心に説明します。	確認テストとレジュメ（自己資本比率，流動比率，当座比率）を復習する（1時間）
第10週： 安全性分析（2） 安全性は「倒産危険性」ともいえます。自社の倒産は何としても回避しなければいけませんし，倒産しそうな相手との取引は当然避けるべきです。ここでは，こうした企業の安全性について，財務諸表の数値等を用いて，分析します。具体的には，固定比率や固定長期適合率などを説明します。	レジュメ配布。「固定比率と固定長期適合率」について復習する（1時間）
第11週： 損益分岐点分析（1） 黒字にするための売上の最低ラインが損益分岐点となります。これを知らなければ，企業経営は成り立たないといっても過言ではありません。ここでは，財務諸表の数値を用いて，企業の損益分岐点について学習します。具体的には，貢献利益率や損益分岐点比率，安全余裕率などを学習します。	レジュメ配布。「損益分岐点の算出方法」について復習する（1時間）
第12週： 損益分岐点分析（2） 黒字にするための売上の最低ラインが損益分岐点となります。これを知らなければ，企業経営は成り立たないといっても過言ではありません。ここでは，財務諸表の数値を用いて，企業の損益分岐点について学習します。具体的には固変分解などを学習します。	レジュメ配布。「固変分解」について復習する（1時間）
第13週： 生産性分析 企業が投入した経営資源から，どれだけの成果を生み出すことができたかを分析するのが，生産性分析です。ここでは，生産性分析の意義や生産性を高めるための要素等を学習します。	レジュメ配布。「付加価値と労働生産性」について復習する（1時間）
第14週： 成長性分析 企業の売上や利益の伸びを分析するのが，成長性分析です。自社の将来や株式投資を考えている人にとっては，押さえておきたいポイントです。ここでは，財務諸表の数値等を用いて，企業の成長性を分析します。	レジュメ配布。「売上高成長率など各種成長率」について復習する（1時間）
第15週： キャッシュ・フロー分析 企業活動の源泉は，利益や売上ではなくキャッシュ（現金と現金同等物）です。「黒字倒産」という言葉があるように，いくら利益があがっていてもキャッシュが足りなくなれば，企業は倒産してしまいます。ここでは，財務諸表の数値を用いて，キャッシュ・フロー分析を学習します。	レジュメ配布。「キャッシュ・フロー計算書」について復習する（1時間）
第16週： 期末試験 これまでの授業内容を試験範囲とします。筆記用具，計算機（電卓）以外は，持ち込み不可です。	試験問題，解答例。

授業の運営方法	（1）授業の形式	「講義形式」
	（2）複数担当の場合の方式	
	（3）アクティブ・ラーニング	「アクティブ・ラーニング科目」
地域志向科目	該当しない	
備考	質問等はEメールでも受け付けます。	

○単位を修得するために達成すべき到達目標	
【関心・意欲・態度】	経営分析の意義・目的について説明できる。
【知識・理解】	経営分析に用いる代表的な分析指標に関する基礎知識が身についている。

【技能・表現・コミュニケーション】	経営分析に関する代表的な分析指標を使いこなすことができる。
【思考・判断・創造】	企業の財務諸表等を比較・分析することができる。

○成績評価基準（合計100点）			合計欄	80点
到達目標の各観点と成績評価方法の関係および配点	期末試験・中間確認等（テスト）	レポート・作品等（提出物）	発表・その他（無形成果）	
【関心・意欲・態度】 ※「学修に取り組む姿勢・意欲」を含む。			15点	
【知識・理解】 ※「専門能力〈知識の獲得〉」を含む。	70点			
【技能・表現・コミュニケーション】 ※「専門能力〈知識の活用〉」「チームで働く力」「前に踏み出す力」を含む。		10点		
【思考・判断・創造】 ※「考え抜く力」を含む。		5点		

（「人間力」について）

※以上の観点に、「こころの力」（自己の能力を最大限に発揮するとともに、「自分自身」「他者」「自然」「文化」等との望ましい関係を築き、人格の向上を目指す能力）と「職業能力」（職業観、読解力、論理的思考、表現能力など、産業界の一員となり地域・社会に貢献するために必要な能力）を加えた能力が「人間力」です。

○配点の明確でない成績評価方法における評価の実施方法と達成水準の目安	
成績評価方法	評価の実施方法と達成水準の目安
レポート・作品等（提出物）	授業の確認問題をしっかりやること。授業終了時に教員がチェックします。Sレベル：達成目標を満たしている。Aレベル：ほぼ満たしている。Bレベル：なんとか満たしている。Cレベル：一部分満たしている。
発表・その他（無形成果）	授業中に適宜質問をします。優れた解答をした学生は，記録して加点することがあります。